

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1872~1979年



かつやく ぶんや
活躍した分野:
ちようこく か
彫刻家



ゆかりのある場所:
でんちゅう びじゅつかん
・田中美術館



ひらくし
平櫛

でんちゅう
田中

新高見 高梁市
総社市
早島市
倉敷市
矢掛市

井原市

浅里笠岡市
口庄町
市



ひらくしでんちゅう めいじ ねん いま いばらしにしえばらちよう う ふくやま ひらくしけ
平櫛田中は、明治5（1872）年、今の井原市西江原町に生まれました。福山の平櫛家
ようし はい いえ ゆうふく おおさか ほうこう で
へ養子に入りましたが、その家は裕福でなかったため、すぐに大阪へ奉公に出ました。

さい ちようこく お し あ たよ どうし おおさか
21歳のころ、彫刻へのあこがれを押さえることができず、知り合いを頼って、当時大阪
ゆうめい にんぎようし なかたにせいこ でし い まな きほり きほう でんちゅう しょう
で有名な人形師の中谷省古に弟子入りしました。このときに学んだ木彫の技法が、田中の生
が い きほう であ
涯をかけることになる技法との出会いとなったのです。

でんちゅう ちようこく べんきよう めいじ ねん じようきよう たかむらこうろん もん
田中は、さらに彫刻を勉強するため、明治30（1897）年に上京し、高村光雲の門を
しやうふ さくひん はっぴよう
たたき、「樵夫」などの作品を発表しました。

めいじ ねん たかむらこうろん しょうかい おかくらてんしん で あ あと てんしん しょうがい し
明治40（1907）年、高村光雲の紹介で岡倉天心と出会い、その後は天心を生涯の師
ちようこく せんねん てんしん であ う かつじんせん ひとびと かんしん あつ
とあおぎ、彫刻に専念しました。天心との出会いから生まれた「活人箭」が人々の関心を集め、
さいしよ しゅっせ さく
最初の出世作になりました。

しょうわ ねん かぶき めいゆうろくだい めきくころう であ だいひようさく かがみじし
昭和11（1936）年、歌舞伎の名優六代目菊五郎と出会い、代表作である「鏡獅子」
せいさく はじ かずかず しさく はっぴよう あと しょうわ ねん かんせい
制作を始め、数々の試作を発表した後、昭和33（1958）年に完成しました。

でんちゅう しょうわ ねん どうきようびじゅつがっこう いま どうきようげいじゅつだいがく きようじゅ
田中は、昭和19（1944）年からは東京美術学校（今の東京芸術大学）の教授として
こうはい し どう にほんちようこくかい おお こうけん みと しょうわ ねん
後輩の指導にあたるなど、日本彫刻界に大きく貢献したことが認められ、昭和26（1951年）
ぶん かくんしやう じゅよ びじゅつがい さいこうほう じもと いばら きせい し
文化勲章を授与され、美術界の最高峰になりましたが、地元の井原へもたびたび帰省し、市
ない がっこう さくひん きふ ちいき げいじゅつ はってん こうけん
内の学校へ作品を寄付するなど地域の芸術の発展にも貢献しました。